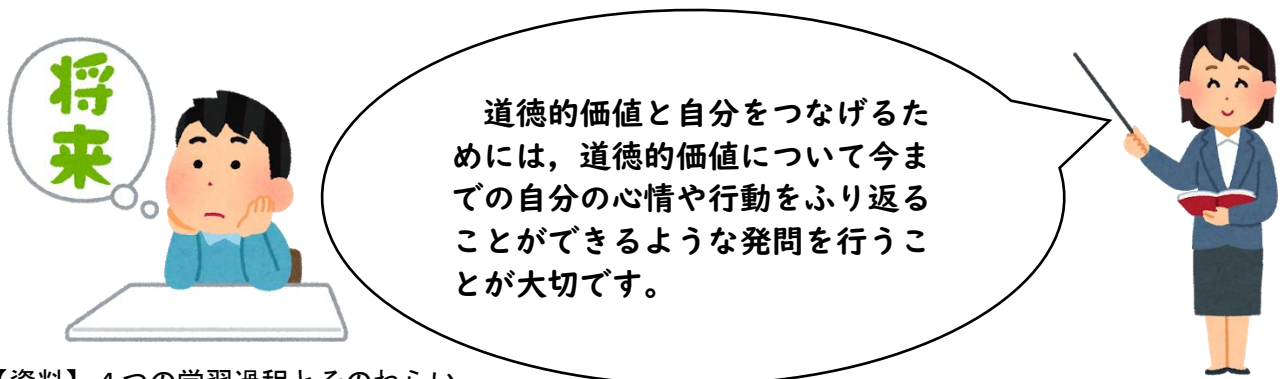


Q12 「考え、議論する道徳」において、考えを深めさせるための工夫とは？

A 道徳的価値を自分のこととして捉えることができる話し合い活動を仕組んだ学習過程を位置づけることです。

道徳的価値を自分のこととして捉えることができる話し合い活動を仕組んだ学習過程とは【資料】のようなものです。道徳的価値と自分の行動を照らして考えたり、自己を見つめさせたりする学習活動を取り入れ、道徳的価値を一般化し、自分とのつながりを話し合わせる事が大切です。



【資料】 4つの学習過程とそのねらい

学習過程	学習活動・手だて
【導入】 道徳的価値を意識させます。	ねらいとする道徳的価値に対して、現在もっている道徳的価値を意識させることができるような活動や発問を仕組みます。
【展開前段】 道徳的価値を広めたり、深めたりします。	資料や友だちの考えを基にして、ねらいとする道徳的価値を深めさせることができる話し合い活動等を仕組みます。
【展開後段】 道徳的価値を一般化し、内面から自覚させます。	<u>これまでに出た考えをもとに道徳的価値を一般化し、自己を見つめさせることができるような中心発問を準備し、話し合い活動等を仕組み学習内容をまとめさせます。</u>
【終末】 実践への意欲をもたせます。	本時の学習を整理し、実践への意欲をもたせることができるよう教師の説話を行ったり、参考となる資料を提示したりします。

Q13 「考え、議論する道徳」において話し合いを活 発にさせる工夫とは？

A 「自問自答型問いかけ」の視点を取り入れた補 助発問を仕組むことです。

補助発問とは、【資料1】のようなものであり、この補助発問を意図的に活用することにより、生徒に新たな議論を与えることができます。

また、議論を活発にし、自己を見つめさせるために必要なことは教材や価値に対しての自我関与です。この自我関与を高めるために、道徳の本質を浮かび上がらせ、生徒が自分の生き方を倫理的に振り返ることをめざした【資料2】のような「自問自答型問いかけ」が必要です。

【資料1】 補助発問の目的や効果

	目的や効果
補助発問 (類義語) 切り返し ゆさぶり 否定発問	・いわゆる「問い返し」発問。基本発問や中心発問における子どもの反応に対して、価値の本質的な理解に向かう道筋を修正したり、わかったつもり之感覚を崩し、新たな気づきを促したりする。使う場面によって効果が変わるため、意図的に用いることで授業の流れを調整できる。

【資料2】 自問自答を促す発問の種類と発問例（「相互理解、寛容」の内容項目）

発問の種類	発問例
① 場面を問う ○特定の徳を発揮できる場面とできない場面の違いはどこか。	・寛容になれる場面と寛容になれない場面の違いはどこですか。
② 限度を問う ○特定の徳の限度はどこまでなのか。	・寛容とはすべてを容認することなのでしょうか。
③ 必要性を問う ○どうしてこの徳が必要なのか	・みんなが広い心をもたなかったらどんなことが起こりますか。
④ 関係性を問う ○徳の対象は何か・誰に対する徳なのか。	・自分への寛容と他者への寛容はどこが違いますか。
○他者と自分がどんな関係にあるのか。	・自分と利害関係にある人には寛容でも、自分と利害関係のない人には寛容でなくてもいいのでしょうか。